

2章. 地域の概要

地域の概要は以下のとおりである。

1. 人口

月舘地域の人口と世帯数は以下のとおりである。月舘地域の人口と世帯数は、3,618 人、1,316 世帯となっており、御代田が 1,231 人、466 世帯、月舘が 819 人、292 世帯となっている。

【全体数（外国人含）】 表1 伊達市と月舘地域の人口と世帯数 平成27年7月末現在

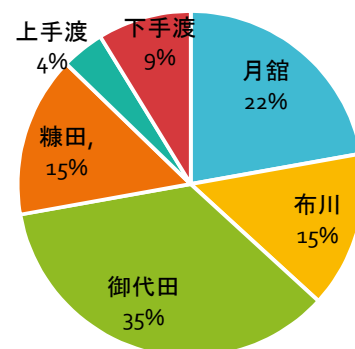
区分	地区	行政区	世帯数	男	女	計
月舘地域	月舘	月舘	292	400	419	819
		布川	192	249	262	511
		御代田	466	571	660	1,231
	小手	糠田	198	315	294	609
		上手渡	53	83	84	167
		下手渡	115	157	124	281
区分	地域		世帯数	男	女	計
伊達市	月舘		1,316	1,775	1,843	3,618
	伊達		4,186	5,473	5,754	11,227
	梁川		6,017	8,742	9,050	17,792
	保原		8,169	11,111	11,677	22,788
	霊山		2,746	3,850	4,028	7,878
	伊達市合計		22,434	30,951	32,352	63,303

参考：住民基本台帳及び世帯数（伊達市全体）

【月舘地域 世帯】

地区	行政区	世帯数	構成比
月舘	月舘	292	22%
	布川	192	15%
	御代田	466	35%
小手	糠田	198	15%
	上手渡	53	4%
	下手渡	115	9%
計		1,316	100%

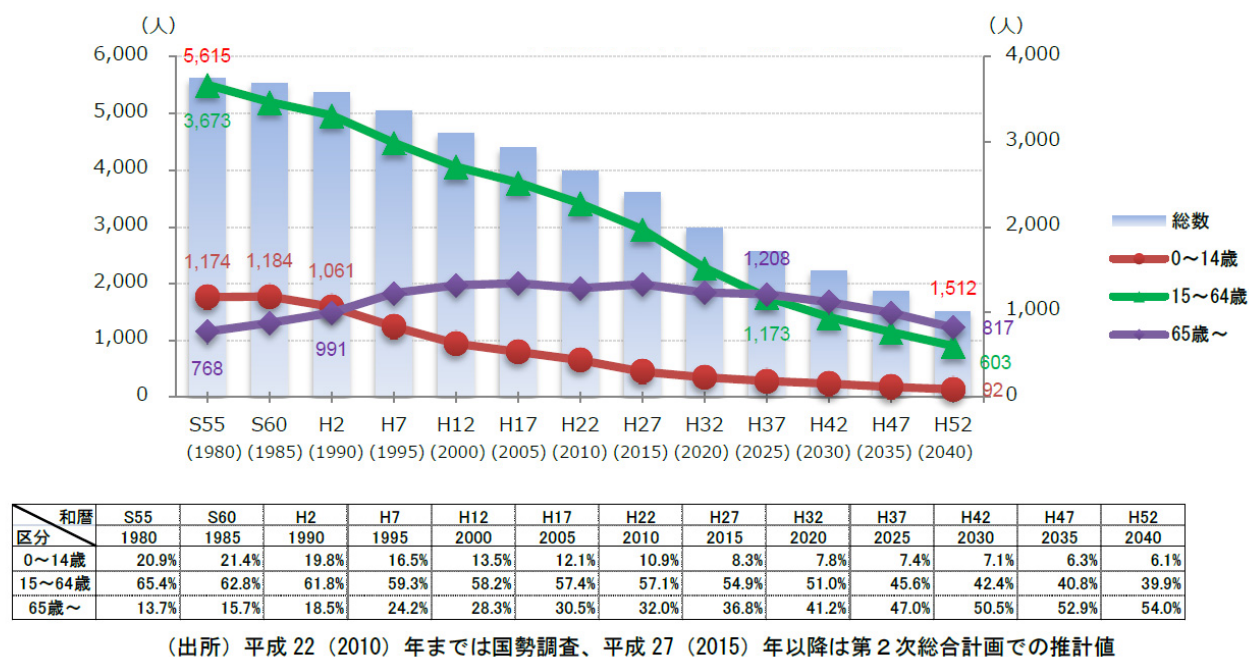
月舘地域 世帯数



月舘地域で想定される人口変動は、平成 27 年の段階で、3,618 人から平成 52 年には 1,512 人まで約 2,100 人が減少すると予測されている。

月舘地域の高齢化率は伊達市の 5 つの地域で最も高く、平成 22 年時点で約 32% となっており、今後、さらに高齢化率が高くなり、平成 52 年には約 54% になると想定されている。

表 2 月舘地域の人口の推移と推計



(出所) 平成 22 (2010) 年までは国勢調査、平成 27 (2015) 年以降は第 2 次総合計画での推計値

出典：伊達な地域創生戦略

2. 産業

産業は以下のとおりである。月舘地域の産業は、「製造業」、「農業、林業」、「卸売業、小売業」の順に多い。第一次産業が 843 人、第二次産業が 666 人、第三次産業が 423 人となっており産業間の従業員数の偏りが少ない状況となっている。

表 3 産業分類別の就業者人口

	総数									
		雇用者	正規の職員・従業員	労働者派遣辞書の派遣社員	パート・アルバイト・その他	役員	雇入のある業種	雇入のない業主	家族従業者	家庭内職者
総数(産業分類)	2,010	1,289	879	69	341	75	47	309	259	3
A 農業、林業	423	17	7	1	9	-	12	201	192	-
うち農業	416	11	5	-	6	-	12	200	192	-
B 漁業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C 鉱業、採石業、砂利取業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
D 建設業	211	143	122	1	20	21	13	25	9	-
E 製造業	455	401	282	40	79	26	3	13	9	3
F 電気・ガス・熱供給・水道業	5	5	4	-	1	-	-	-	-	-
G 情報通信業	8	8	6	2	-	-	-	-	-	-
H 運輸業	78	76	54	6	16	1	-	1	-	-
I 卸売業、小売業	225	137	73	4	60	12	11	31	34	-
J 金融業、保険業	20	18	14	1	3	2	-	-	-	-
K 不動産業、物品賃貸業	8	5	5	-	-	1	1	1	-	-
L 学術研究、専門・技術サービス業	15	10	10	-	-	3	-	2	-	-
M 宿泊業、飲食サービス業	58	51	18	1	32	1	3	3	-	-
N 生活関連サービス業、娯楽業	58	44	19	1	24	1	2	5	6	-
O 教育、学習支援業	51	49	34	2	13	-	-	2	-	-
P 医療、福祉	141	140	97	6	37	-	-	1	-	-
Q 複合サービス業	36	36	32	-	4	-	-	-	-	-
R サービス業(他に分類されないもの)	82	59	34	-	25	6	-	15	2	-
S 公務(他に分類されるものを除く)	58	58	53	-	5	-	-	-	-	-
T 分類不能の産業	78	32	15	4	13	1	2	9	7	-
(再掲) 第 1 次産業	423	17	7	1	9	-	12	201	192	-
(再掲) 第 2 次産業	666	544	404	41	99	47	16	38	18	-
(再掲) 第 3 次産業	843	696	453	23	220	27	17	61	42	-

参考：平成22年国勢調査 産業等基本集計

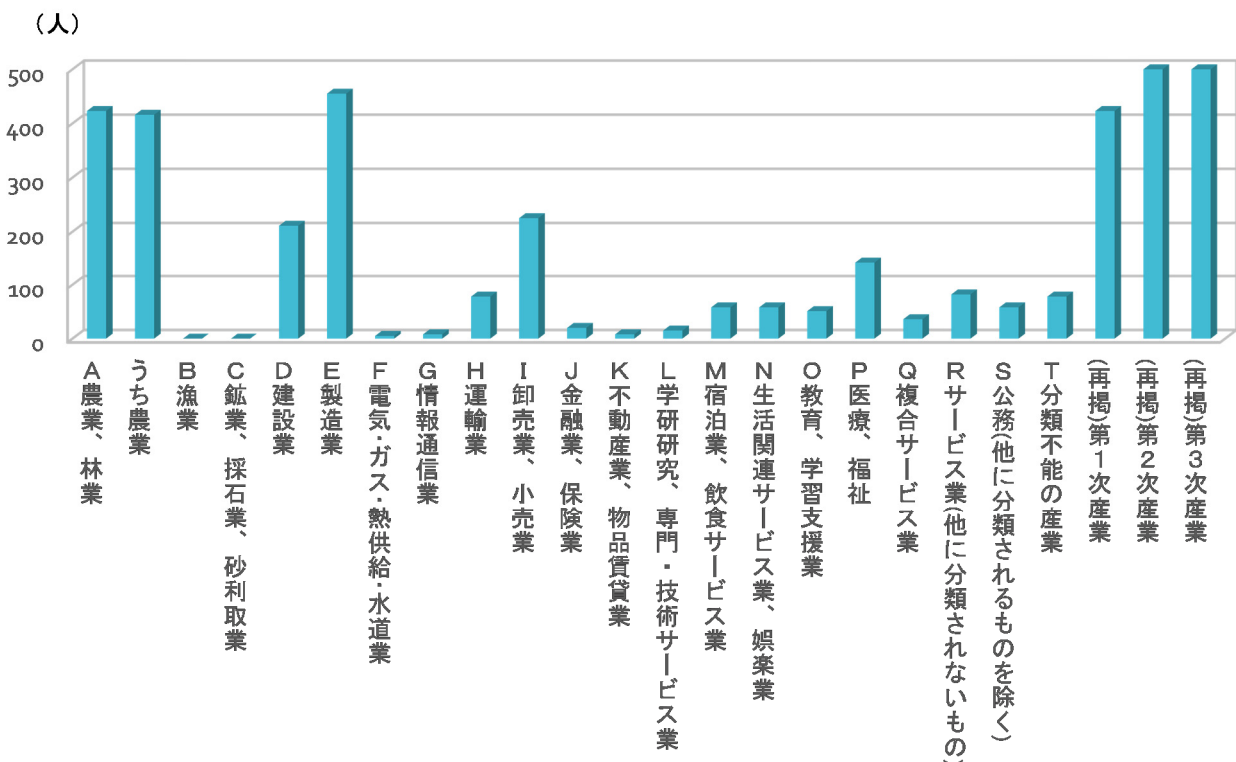


図 1 産業分類別の就業者人口

○農業・林業

農業は、1ha 未満の農家が大半を占め、農家の多くは、小規模な農業経営を行っている。担い手の著しい減少と高齢化により、遊休地化、荒廃化が進展している。

林業は、シイタケやなめこ等の林産物の生産が盛んであったが、原発事故の影響で停滞している。

○工業

電気（弱電）、精密機械を中心とした企業が多く、その多くが零細な工場である。国内の経済状況には高い成長率を期待することはできず、経済構造の変化とも相まって、地域内への企業はかなり厳しい状況にある。

○商業

商店街の大部分は家族経営であり、商店圏域は、一部の通過消費人口を除いて、地域外からの消費人口の流入はほとんどなく、主たる消費者は地域内居住者によるものとなっている。

マイカーの普及により、若者層を中心に地域内居住者も、近隣の大型店に流出していく傾向が高まっている。

○観光

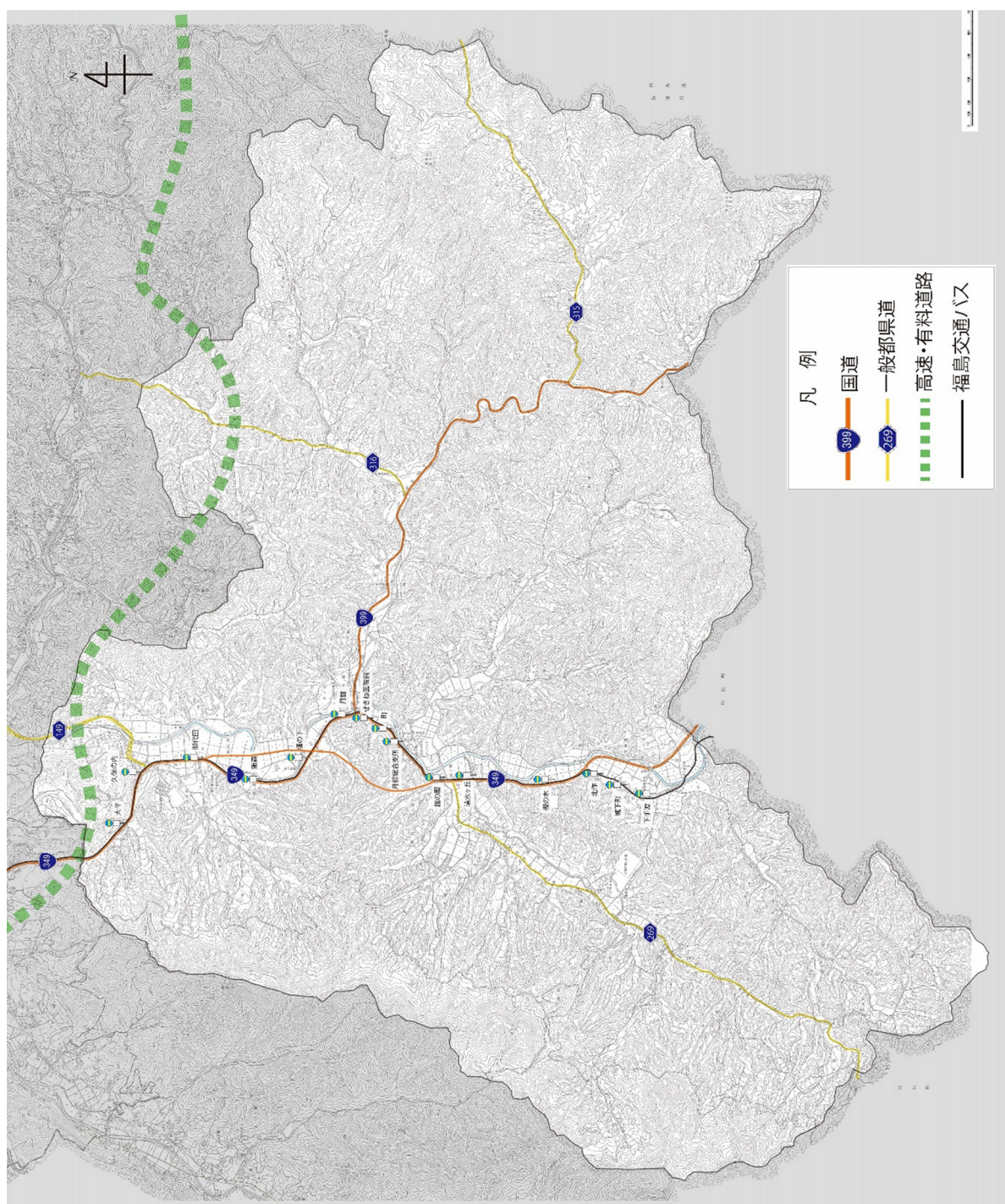
女神山、御幸山、月見館森林公園、月館運動場、七ツ森林道、下手渡藩陣屋跡などの観光施設のほか、小手姫の里夏祭り、小手姫の里秋祭りなどのイベントがある。

3. 公共交通・道路

月舘地域は国道 349 号が南北に縦断し、糠田川沿いに県道 269 号（月舘川俣線）があり、霊山地域の太平地区と布川の赤井堂を繋ぐ県道 316 号（広畑月舘線）がある。

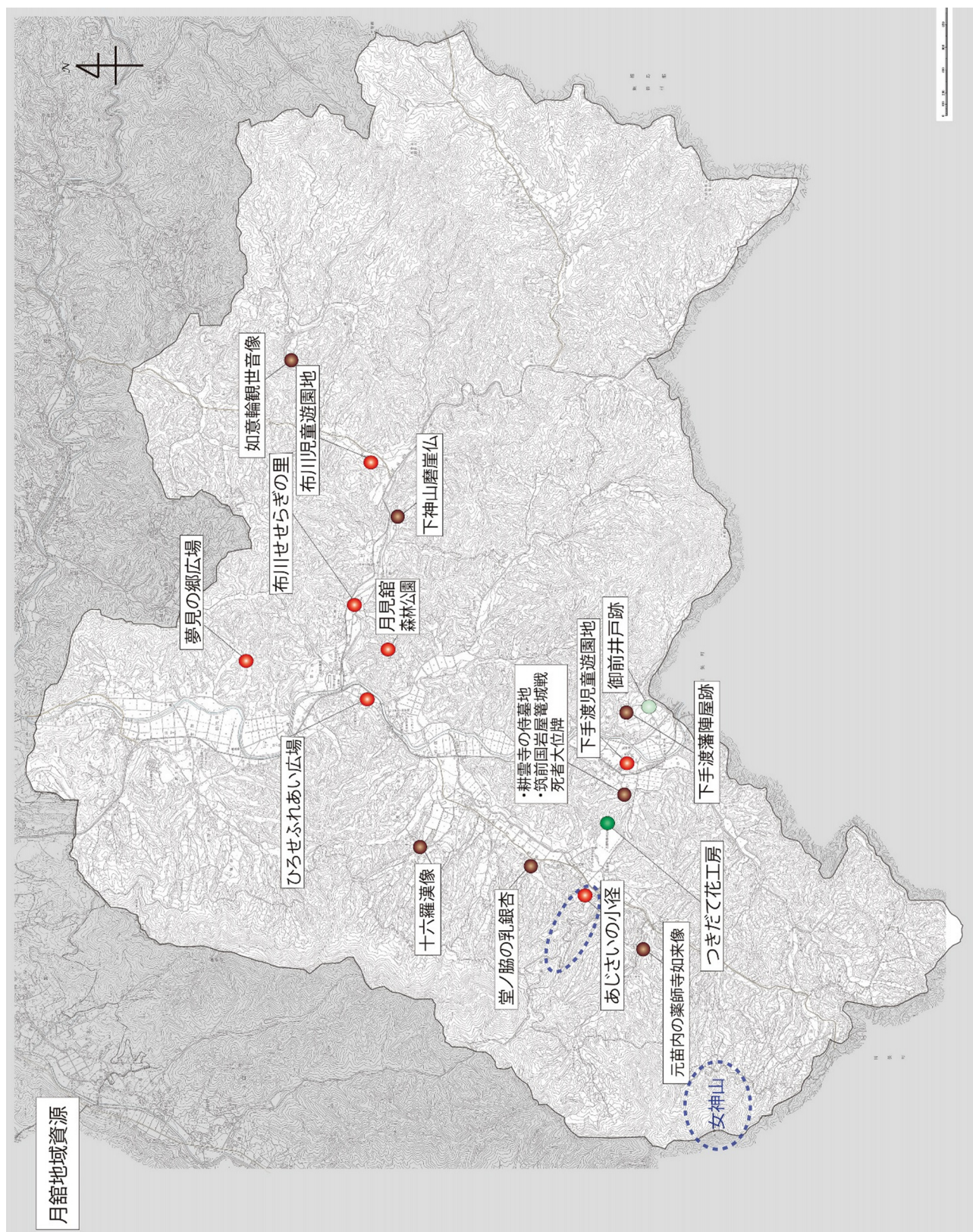
また、東北中央自動車道（相馬から福島）が整備中であり、霊山地域小国地区にインターチェンジが設置予定である。

公共交通としては、地域内にバス停が 15 箇所あり、川俣行きが 1 時間～2 時間半に 1 本間隔、掛田駅行きが 3 時間～4 時間に 1 本間隔、福島行きが 5 時間に 1 本間隔で運行している（土日祝はこれより本数減）



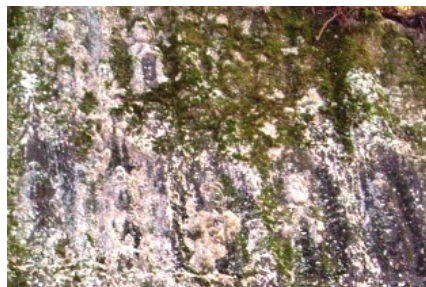
4. 地域資源

本地域には、如意輪観世音像、下神山磨崖仏、耕雲寺の侍墓地、筑前国岩屋竈城戦死者天位岬、地藏菩薩像、十六羅漢像、堂ノ脇の乳銀杏、下手渡藩陣屋跡、元苗内の薬師寺如来像の地域資源がある。



●下神山磨崖仏

飯館方面に向う国道 399 号沿い、下神山の岩に刻まれた観音像。1723 年(享保 8)に彫られたとされ、最大 50cm 前後のものが 34 体ある。



●月見館森林公園

キャンプ、芋煮会など自然をまるごと楽しみたい方におすすめの場所。バンガローや楽しい遊具など整備されている。



出典：月館町商工会 HP



出典：月館町商工会 HP

●布川せせらぎの里

森林公園の入り口にある親水公園。水車小屋や水遊び場があり、子どもたちが安心して水に親しむことができる。



出典：月館町商工会 HP

●つきだて花工房

自然を体験できる公共の宿。大きな窓からは、四季折々の表情豊かな山並みと青空が存分に楽しめる。自然に恵まれた静かな環境を宿泊・休憩・宴会・会議などに活用できる。



●堂ノ脇の乳銀杏

この大銀杏は糠田地区堂ノ脇にあります。根周り 7.5 メートル。高さ 25 メートル。圧倒される大きさです。樹齢は 400 年と推定されています。多数の気根が乳のように垂れ下がっています。この気根を切って持ち帰ると母親の乳がよく出るようになるといわれている。



●あじさいの小径

平成 5 年から市道長畑線の道路沿い約 2 キロにわたりアジサイを植栽、管理している。約 4 千本のアジサイが咲き誇る。



●女神山

およそ 1400 年前、崇峻(すしゅん)天皇の妃である小手姫(おてひめ)は、天皇が政変で亡き後、東国で新しい国をつくろうと旅立った息子の蜂子皇子(はちこのおうじ)を探してこの地にやってきましたが、姫は皇子に再会できぬまま、とうとうこの地で亡くなってしまったと伝えられている。



●耕雲寺の侍墓地

下手渡集落より西方へ約 200 メートル入ったところに、一見民家と思われるような赤い屋根の建物が下手渡藩ゆかりの寺である。



出典：つきだてイズム HP

●十六羅漢像

元亀 3 年開山の曹洞宗岳林寺の向かいの丘に石造の十六羅漢像がある。

羅漢とは、阿羅漢の略語で、真人と訳され、聖人を意味し、完全に悟りを開いた功德の備わった最上の仏教修行者のことで、禅宗では修業の階程として造立、崇拝されている。

第一尊者は、賓度羅跋羅惰闍尊者（ピンドラバラダジャーソンジヤ）、一般に「オビズル様」と呼ばれている。このオビズル様の背後に「信州高速溝口村亀右衛門、泰道」の名が刻まれており、作者名の明らかな石像で数少ないものである。



●下手渡藩陣屋跡

下手渡藩は、柳川藩立花氏の一族である三池藩主立花種善侯が、文化 3 年(1806)に九州三池(福岡県大牟田市) から下手渡地方 10 村 1 万石の領主として移封され、下手渡村天平に陣屋を置いたことにはじまります。途中 1 回村替えがあったものの、明治元年まで 63 年間続きました。

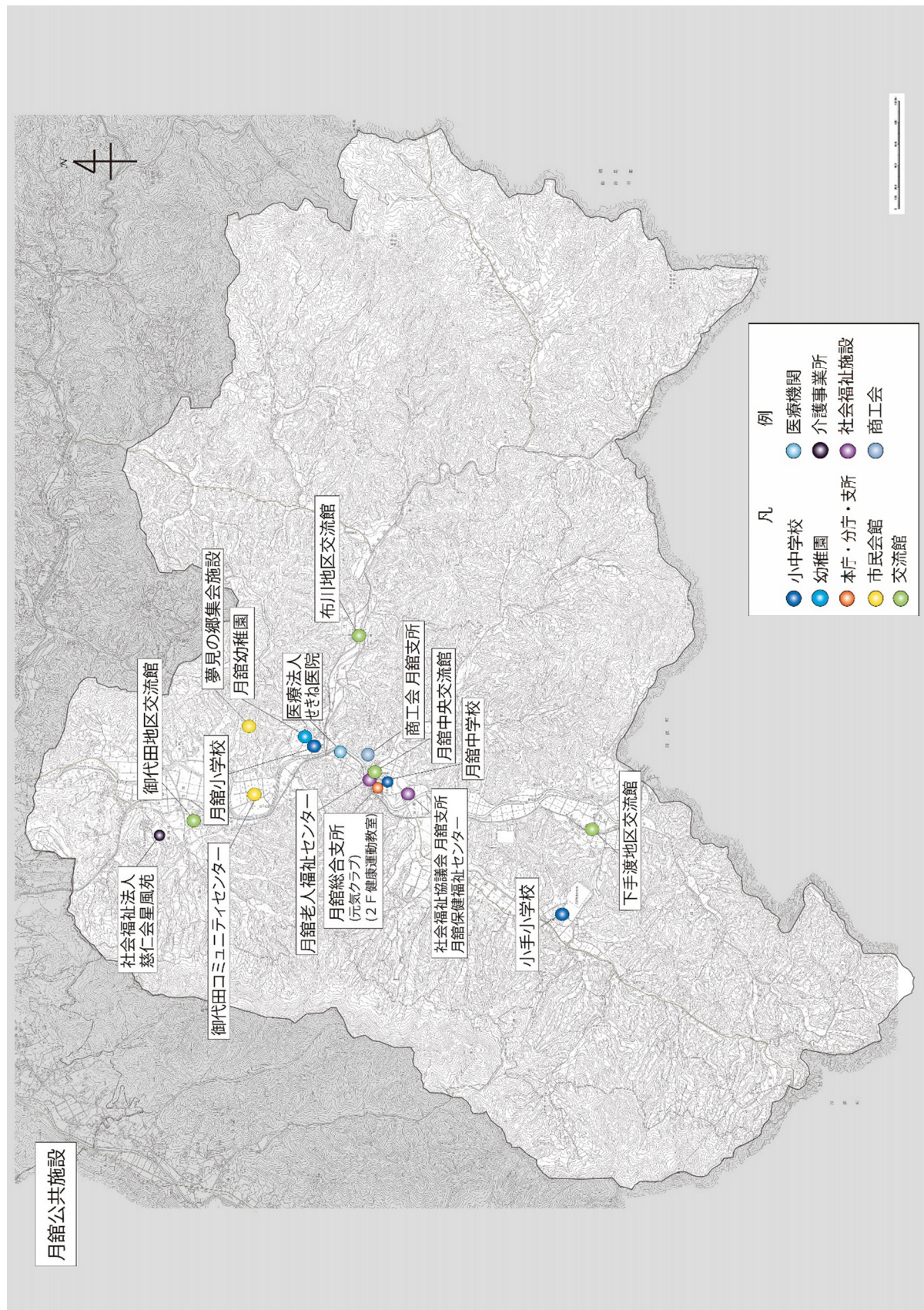
小藩とはいえ名家の一つで、3 代藩主の種恭侯は幕末期に老中格となつて、大政奉還の大任を果たしました。戊辰戦争では、はじめ新政府の圧力に対抗する奥羽越列藩同盟側でしたが、途中で官軍側に味方したため、同盟側の仙台藩に攻められて藩庁の下手渡天平陣屋を焼失しました。種恭侯は明治維新後、学習院の初代院長に就任しました。

明治 35 年(1902)年に、旧藩士によって立花家の出自や事歴を記した「懷古の碑」が陣屋跡に建てられました。



5. 公共施設

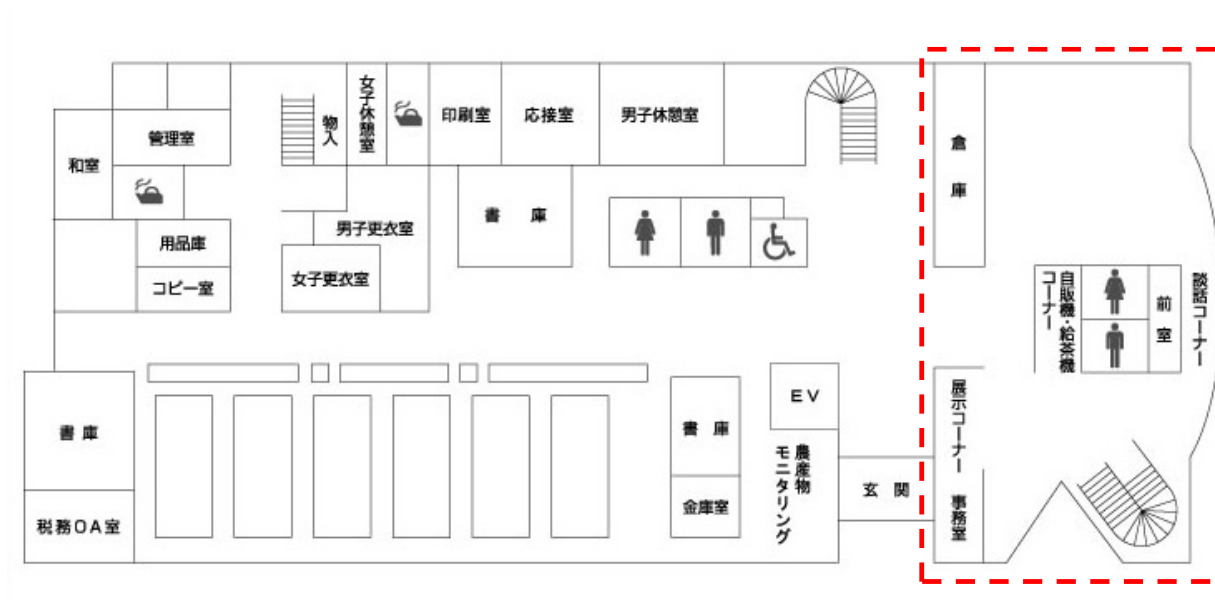
主な公共施設は以下のとおりである。月館地域のまちなかに行政関連施設、医療施設、幼稚園等の各種施設が集積しており、交流館や集会所は各地区に配置されている。



●月館総合支所

月館総合支所は、1階が庁舎として利用され、2階は健康運動教室として利用されている。

月館総合支所に隣接するふるさとふれあいホールは、1階の展示コーナー及び談話コーナーが地域交流の場として活用されている。



ふるさとふれあいホール

図2 月館総合支所1階見取り

●小手小学校

小手小学校は、敷地面積 8,308 m^2 で校舎は RC 構造 3 階建て、延べ床面積が 1,707 m^2 となっている。



●月舘小学校

月舘小学校は、敷地面積 14,597 m^2 で校舎は RC 構造 3 階建て、延べ床面積が 3,328 m^2 となっている。



●月舘中学校

月舘中学校は、敷地面積 22,251 m^2 で校舎は RC 構造 3 階建て、延べ床面積が 2,933 m^2 となっている。



●児童数・生徒数

月舘小学校は2014年時点で全体児童数が107人、小手小学校は、31人となっており、月舘中学校は85人となっている。合計で223人となっている。月舘小学校は6学級となっているが、小手小学校は、複式編成となっている。月舘中学校は、3学級の確保ができています。

また、月舘地域の小中学校の児童生徒数の推移の見通しは次のとおりである。平成32年度では小中合わせて、145人になると予測されている。

表4 月舘小学校と手小学校の児童数（2014年度）

	月舘小学校			小手小学校			合計
全生徒数	全児童数	全学級数	クラスサイズ	全児童数	全学級数	クラスサイズ	全児童数
全体	107人	7学級		31人	4学級		138人
普通学級	104人	6学級	17.3人	31人	4学級	7.8人	135人
特別支援学級	3人	1学級		0人	0学級		3人
	児童数			児童数			児童数
1年生	9人			6人			15人
2年生	17人			5人			22人
3年生	13人			8人			21人
4年生	24人			4人			28人
5年生	16人			7人			23人
6年生	25人			1人			26人

表5 月舘中学校の児童数（2014年度）

全生徒数	全学級数	学級数	クラスサイズ
全体	85人	4学級	
普通学級	83人	3学級	27.7人
特別支援学級	2人	1学級	
	生徒数		
1年生	26人		
2年生	32人		
3年生	25人		

表6 児童・生徒数の将来予測

学校名	H18年	H20年	H22年	H24年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	H31年	H32年
月舘小学校	205	190	155	133	107	91	87	76	73	62	63
小手小学校	28	29	24	28	31	34	35	35	31	29	24
児童数	233	219	179	161	138	125	122	111	104	91	87
月舘中学校	140	107	122	104	85	85	76	79	74	74	58
児童・生徒数	373	326	301	265	223	210	198	190	178	165	145

出典：伊達市教育委員会資料

6. 地域組織

月館地域には、6つの地域自治組織があり、構成団体は以下のとおりである。

表7 月館地域自治組織

地区	月館地区			小手地区		
区分	大字つきだて振興会	大字布川自治振興会	大字御代田自治会	大字糠田地域振興会	大字上手渡振興会	大字下手渡自治会
部会名	地域づくり部会 健康福祉部会	教育文化部会 産業振興部会 健康福祉部会 安全安心部会	総務企画部会 生涯学習部会	地域づくり部会 健康福祉部会	地域づくり・環境部会 健康福祉部会 教育・文化部会	地域振興部会 福祉教養部会
構成団体等	- 行政推進員 - 伊達市消防団月館支団第1分団第1部 - 伊達地区交通安全協会月館部会 月館分会 月館研 - 月館婦人会 - 老人クラブ連合会所西部 - 月館老人クラブ - 伊達市農業委員会 - 中山間月館集落 - 月館体育協会 - 月館地域青少年育成推進協議会 - ふれあいサロン - 月館方部民生委員協議会 - 字町委員会 - 市内組青年会 - 春秋会 - 新月館太鼓字町お囃子会 - 伊達市教育委員会 - 伊達市商工会 - 月館幼稚園・月館小学校・月館中学校 - 月館地区自治組織設立検討委員会	- 行政推進員 - 体育部長 - 農事組合長 - 中山間グループ - そば研究会 - サロン代表者 - 健康推進員 - 民生児童委員 - 布川シニアクラブ - 消防団 - 交通安全協会 - 専門部会の活動に賛同する者	- 行政推進員 - 夢見の郷行政推進員 - 夢見の郷 - 交流館運営委員 - 女性代表 - 老人クラブ - まざらんしょ	- 行政推進員 - PTA会長 - 糠田若連代表 - 農業委員 - 地域おこし支援員 - 消防団代表 - 婦人会代表 - 安協糠田班長 - 女神体育部会長 - 民生委員代表 - 保護司	- 行政推進員 - 上手渡シルバークル会長 - 青年会会長 - 青少年健全育成成会会長 - 農協所西部役員 - 小志貴神社牡丹獅子舞保存会会長 - 小志貴神社・月ノ宮神社総代長 - 第2分団第1班班長 - 伊達市民生委員 - 伊達市国保審議会委員 - 女神サロン会長 - 伊達地区交通安全協会 月館部会 小手分会上手渡班班長 - 中山間地域上手渡地区代表	- 組代表 - 組代表消防団代表 - 交通安全協会代表 - 中山間地域下手渡集落代表 - 信託財産管理会長 - 農業委員 - 老人クラブ代表 - 婦人会代表 - 祭実行委員会代表 - 子供会代表 - たちばなふれあいサロン代表 - 青少年育成推進協議会推進員 - 民生児童委員 - 人権擁護委員 - その他必要富と練る団体又は個人

地域づくりに関わる活動組織としては、「つきだて匠の会」などがある。
このほか、花に関わる活動として「やまゆり花舞四季会社」、お祭りの関わる活動として「つきだて小手姫の里まつり協議会」などがある。

表8 主な活動団体

団体名	活動内容
つきだて匠の会	月舘地域に伝わるもの作り、食などの生活文化を見学・体験できるワークショップなどもりもりにおいて、開催している。 ・つきだて文化伝承ワークショップ (うどん打ち、郷土料理、正月料理、しめ縄作り、竹とんぼ作り、竹かご作り等)
やまゆり花舞四季会社	四季を通じて花が舞うまちになってほしいという願いを込めて、各地区を花でいっぱいにする各種活動を行っている。 ・つきだて花の展示会 ・下手渡フラワーまつり ・あじざい小径まつり ・リリーフェスタ ・花街道スタンプラリー 等
つきだて小手姫の里まつり協議会	・小手姫の里 夏まつり ・小手姫の里 秋まつり

7. 住民の意見（月舘まちづくり会議、月舘町中心市街地活性化懇談会）

（１）まちなかの活性化のアイデア（月舘まちづくり会議）

住民の意見は次のとおりである。

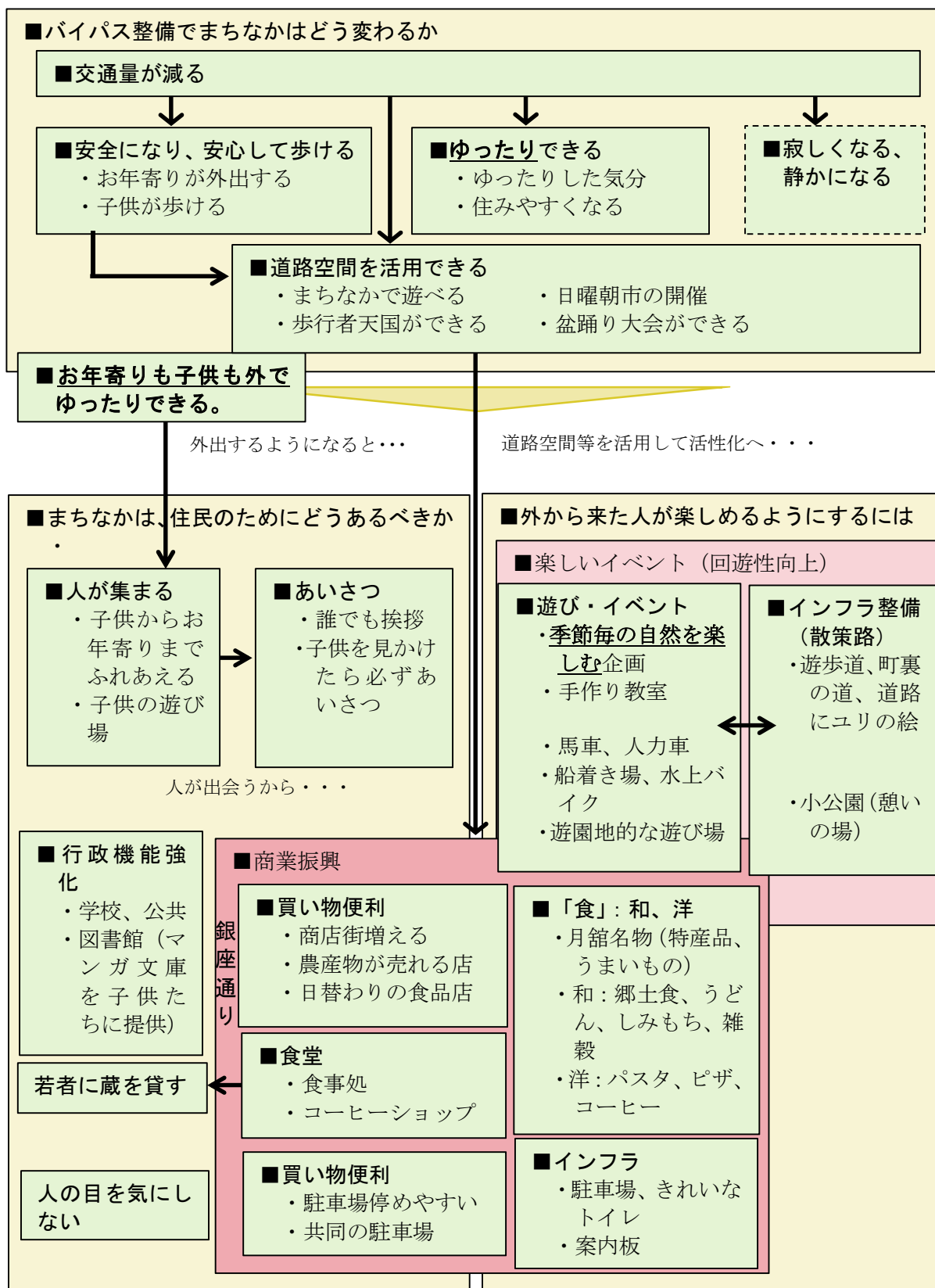


表9 まちなかに関する住民の意見

A 班		題材	B 班	
車が減る			① バイパス整備で宇町地区はどう変わるか？	B 班
・ 静かになってしまう ・ さびしくなる	やすらぎ			
“どう変わる”ではなく“どう変えるか” ・ 安心して歩ける				
・ ゆっくり歩ける ・ 道を利用できる	安全			
・ 町中で盆踊り大会ができる ・ 明るくするためのイベントなどを行う ・ 日曜朝市を開催する	イベント・新しい使い方	② 宇町地区は住民のためにどうあるべきか？	B 班	
町裏(川沿い)の道を車が交互通行できるくらいに拡張する				
・ 子供たちのために商店の人は積極的に声をかける ・ 集まりやすい場所 ⇒人がいる ・ 開放 ・ 子供からお年寄りまでふれあえる所 ・ 子どもの遊び場	集まる、ふれあい			
・ 安心して住みよい町 ・ 使い勝手のよい地区に ・ 何事にも便利な地区 ・ 足りないものが補える所 ・ 月舘地区が無医地区にならないようにしたい	まちの中心（便利）			
・ 月舘に住む人が買い物をするのに不便を感じない商店街をつくる ・ 商店を増やして明るくしてほしい ・ じいちゃん、ばあちゃんが作った農作物が売れる店がほしい ・ 食堂がほしい ・ ごはん ・ 歩いて買い物ができる協働の駐車場があればよい	買い物が便利			
・ 行政、学校、公共機能に特化 ・ 図書館 ⇒マンガ文庫を子供たちに提供する	公共機能が充実	③ 外から来た人が楽しめるようにするには？	B 班	
・ 月舘に来なければ食べられない食べ物の開発・発掘 ⇒うまいものを食べさせてくれる店 ・ コーヒーなど飲める店 ・ スムージー屋 ・ パスタの店、ピザ ・ 昔食べていたものを復活しよう ⇒うどんを名物にしよう ⇒しみもち、くさもち ⇒ざっこく食堂	食べる			
・ 遊び場 ・ 遊園地的なもの	自由			
・ イベント ・ 時間を感じない町でありたい ・ 道路にユリの絵など ・ お金がかからない町でありたい ・ 老人が元気な町 ・ 人の目を気にすることがない町でありたい				

(2) 施設別の利活用アイデア（月館まちづくり会議）

フィールドワークにおいて、まちなかの各施設の利活用のアイデアは次のとおりである。

表 10 まちなか施設の利活用に関する住民の意見

場所	意見内容	キーワード
月館中央交流館	・市民から本の提供を受けて蔵書の充実を図る。 ・市民の自主活動・地域交流活動の核としての役割を担える施設にする。	・蔵書の充実 ・自主事業・地域交流活動の拠点
石行ゲートボール場	・せめて草だけは買ったほうがよい。 ・せめて草刈を。 ・広瀬川河畔親水公園（仮称）の駐車場にしては。	・草刈り ・草刈り ・駐車場
ひろせふれあい広場	・避難所としての利用があるのなら、その目的を大事にしなければならない。災害対策は必要。 ・公園であって、子どももいないくらいなのでちょっと利用が？ ・地元の人全員参加のイベント、制作など（商い市、朝市、バザー、チャリティなど）。地元のものを使っての料理コンテスト（わが家の漬物自慢大会等） ・旧商工会との連携利用を考えてもっと利用してもらう。 ・ひろせふれあい広場にもベンチを置いて同じく桜か柳を植えれば、親水公園として新たな魅力が生まれるのでは。	・避難場所 ・利用が少ない ・イベント会場 ・旧商工会との連携 ・親水公園
旧商工会	・もう少しPRしていろんな人に使ってもらいたい。	・PRを！
殿上集会所	・子供の遊び場として利用できれば良いと思います。 ・周囲を山に囲まれているので車の通りはない。町と山との境目のな雰囲気である。 ・小さな子どもの利用。学生などが安心して遊べる宿泊学習など。 ・町中でお茶する、ホッとできる場所がない。喫茶店は容易でないとしたら、無料開放し、管理人だけは常時いる。持込み（酒以外）可能にして時間を決めて利用できれば良いかと思う。	・子供の遊び場 ・山のふところ ・宿泊学習など ・ホッとできる場所
旧役場跡地	・バーベキューができる場所として利用できれば良い。 ・町内では広い空き地であるが、広くもなく狭くもなく、出入りが車で不便では。 ・花火に見晴らしの良い場所。花火のとき、駐車ばかりでなく焼き鳥などの出店（露天商）としての利用はどうか。	・バーベキュー ・車は不便では ・花火の時の出店
殿上集会所～旧役場跡地	・桜の季節、すぐく眺めも良く、広い駐車場もあり、高台にあるので小さな子どもたちも安心して遊べる。保育園の部屋を週替わりのランチを出すファミリー用レストランにし、周りを散策できるようにする。 ・芋煮会などへの提供も考えては！	・桜と眺め、子どもの遊び場、週替わりのランチと散策 ・芋煮会
やすらぎの小径	・じっくり見ると、いろいろ見るべきところが多い。 ・やすらぎの小径を有効活用できるようにして、散策コースなどの利用ができれば良いと思います。 ・このポイントは何かわからない。何のためにここの周辺を歩くのかわからない。生活動線上に必要かわからない。他の地域でも石を観光としているが人は集まっていないと思う。自分が車で通りかかったときに立ち寄るか不明。 ・これから利用してほしい。車の量が少なくなればゆったりとして場所になると思う。 ・やすらぎの小径も隣の空地も開放して広く休み場を作り、裏道を遊歩道として、えぼし石や恋唄のいわれ、首なし地藏など昔話を伝え聞いて歩いてもらう。 ・一人男性が食事をして休んでいた。こういう使用方法もあるんだと、小さな公園でも所々に必要だと感じた。（何もなし土手等で食べてたら変人に思われるので有効な使用だと思う）	・見るべきところあり ・散策コース ・どこがよいの？ ・ゆったりした場所 ・恋唄や昔話 ・小さな公園も必要
えぼし石	・ふる里発見みたい、眠っていたものが？氏神様など町の観光「歩いて発見」にしたいと思います。 ・やすらぎの小径にあり、特徴的な形がユニークで面白い。	・ふる里発見 ・形がユニーク
殿上集会所～やすらぎの小径	・上手に整備すると、集客が大いに望めるかと思います。やすらぎの小径から殿上集会所までのルートには町外の人達にも十分楽しめる要素がある様です。	・楽しめる要素
字町倉庫（商工会館）	・うどんの製麺から料理まで可能。 ・利用するのは、ちょっとダメだと思います。 ・物置状態であった。 ・現在、うどん組合で借りているが、早くうどん工房として製粉所を稼働させてうどんの製造を開始したい。この建物は昭和30年代に建ててられた当時、トラス式の代表的な倉庫である。外壁はコンクリートモルタルで見た目より頑丈である。昭和レトロとして整備すべきでは？	・うどん工房 ・昭和レトロ
広瀬川岸・町裏堤防	・緊急時の水利確保のための道があってもいいかな？ ・車の通行ができるくらいの道路に広げては？	
館織物工場跡	・「館織物工場跡」は、夜間でも使用（スポーツなど）できるように広く内外にもPRし来客を望む。	・夜間スポーツ等
旧役場跡地～館織物工場～広瀬川	・保育園の坂道の急カーブを利用し、館織物工場との合体で何か遊園地（ジェットコースター）のようなものができないか。	・ジェットコースター
関根医院跡地（元高橋八百屋向かい）	・川を眺めながらコーヒーを飲み、木陰の所でミニコンサートやイベントをして“おとなカフェ”の雰囲気を出す。 ・空き家・空き地がたくさんある。関根医院駐車場跡地に川を見ながら野外コテージなど。	・川の眺めとカフェ ・木陰でミニコン ・川と野外コテージ

表 11 まちなか施設の利活用に関する住民の意見

場所	意見内容	キーワード
旧齋藤医院	・建物利用&古民家利用(小手姫様にちなんだ吊るし雛祭り等)	・古民家利用
塗屋	・呉服屋さんにちなんだ、中庭フリーマーケット	・フリーマーケット
糠田屋さんの三店舗	・勿体無い。持ち主さんの考えもあるかと思いますが、貸店舗・日本一小さい道の駅として町産品(季節感を感じる品物をその時期だけ販売する方法)を販売。	・日本一小さい道の駅
月館総合支所と老人福祉センター	・月館総合支所3階の会議場を子供の遊び場に改修する。 ・老人福祉センターを集会所に用途変更し、字町集会所・久保田集会所として利用し、地元に管理を依頼する。	・子供の遊び場 ・集会所として利用
森林公園	・森林公園を大改修して来場者の増加を図る。(パークゴルフ練習場、バラ園、ダリア園等の花の山を整備)	・花の名所
空き家・空き店舗の活用	・「わくや」さんの空き家利用できたら…。一階でお茶(コーヒー)サロンみたいにな。 ・芸術家、パン屋さんなどを誘致し新しい風を入れる。空き店舗のシャッターに幼・小・中学生を中心にらくがきペイント。 ・何をしても誰がするのか課題です。とにかく市が物件を購入するなり借用するなりして、市民に呼びかけて利用方法を考えてもらうというやり方がよろしいと思います。 ・あらためて町の中心に空き店舗が目立つ。これでは住民が困るのは明らかである。 ・今後、利用可能な空き店舗が見受けられた。土堀の倉が点在していて、整備するとき生き返りそうなのも見受けられた。 ・まちの駅や田舎のレストランとして活用する(毎日だけでなく、田舎料理や有名なシェフが関わるような料理を提供)。昔ながらの地元の料理や小手姫うどん等を提供、時々、地元産の野菜等を直売、田舎体験・イベントの開催等。 ・空き家に入ってもらうには、買い物、高校、大学、医者等をどう考えるか。 ・空き地はハコモノを作ると今後大変になると思う。	・お茶とサロン ・芸術家・パン屋 ・シャッターに落書き ・誰がやるのか ・住民が困る ・空き店舗や蔵の活用 ・まちの駅、田舎レストラン ・空き家解消には ・ハコモノは
その他	・字町地区は、他地区の人から見るといろいろ発見するところがあると思いますが、地元の人の目で見ると、どうもインパクトに欠けるところが多いようです。 ・何からまちづくりかと言うとなかなか思い浮かびませんが、まず、安心・安全な、歩いて楽しくなる道づくりだと思います。そこに何か核になるものがあれば、人も物も集まってくるとは思います。月日の流れるのは早いものです。小さなことからでもいいので、実行して行くのが大切だと思います。 ・人を集めることが目的か、町民の暮らしを豊かにすることが目的か?町の人はどこでお金を使っているのか。 ・町の中心の道は道幅が狭く危ない。散策のレベルではない。 ・生活動線上の問題、交通手段の確保。 ・一ヶ所、メインとなるものがほしい。 ・休憩的なところが多いが、何かを目的に行動した後に休みを取るの、目的が必要。(一周バターゴルフ) ・「人(よそ者も入れて)・技・食(郷土食・小手姫うどん、だんご汁等)」を融合した三位一体型の地域づくり。 ・字町商店街、日曜は営業している店舗を探すのが難しい。これでは町外に出かけるしかないかも。 ・商工会事務所を伊達市で買い取って、街中の新しいコミュニティ施設か商業施設を作ってもらおう。 ・場所、施設の整備等により、町外からの人を呼び込むことはできるとは思います。問題は、その場に生活している人々にはあまり他人がうろうろすることには抵抗があるようにも見えました。 ・月館町はこれからも交流を核とした地域づくりを目指すべきであり、花工房、もりもり交流館に並ぶ施設としてクラインガルテンを整備する。 ・小学校の統廃合を考える時期である。	・歩いて楽しくなる道づくり ・人を集めることが町民の暮らしか ・「人・技・食」 ・日曜日の営業 ・商工会事務所 ・生活する住民は ・クラインガルテン

黄色ハッチング: 短期整備地区と関連がある施設

(3) まちなかの活性化のアイデア（月舘中心市街地活性化懇談会）

月舘中心市街地活性化懇談会における意見は、整理すると次のとおりである。

